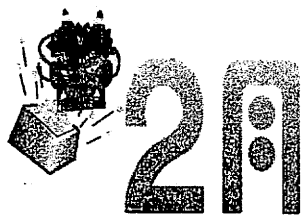
『ONE BOOK ONE LIFE』別冊号1986年9月10日第１号発行

ろくおん通信

No. 109

発行日　'99年２月15日
発　行　盲人情報文化センター
録音製作係



CD図書が録音図書の使い勝手を変える

今年の２月より、盲人情報文化センターでもデイジーを使ってＣＤ図書の製作を手がけています。現在、編集者は数人ですが、スタジオで製作している月間２０タイトル程度の蔵書分もＣＤ図書として発表が可能になりつつあります。デイジーの編集作業はオープンテープのマスターからハードディスクに倍速で流し込み、それをデイジーで編集します。流し込む作業にかなりの時間と手間（さまざまなトラブルも含めて）がかかりますが、編集作業は慣れれば今までのオープンテープの編集と比べてもそんなに時間がかかりません。普通の本であれば１日から２日あれば１作品の編集ができそうです。

ＣＤ図書はまだどこででも製作されているわけではありませんが、今後は広がってくることが予想されます。というのも製作するのに、これまでは数百万円と言われていましたが、現在では、編集に必要な機材を２０～３０万円程度でそろえることができます。

機材は、

１．流し込み用の「カセットデッキ」（オープンであればオープンデッキ）
２．「ディスプレー」
３．「パソコン（ペンティアム300、４ギガ程度のハードデイスク）」
４．ＣＤに焼き付けるための「ＣＤ－Ｒ」

が必要です。これらは全部揃えても、２０万円から３０万円以内で可能です。

さて、そのＣＤ図書ですが、できあがったものをプレクストークで聞いてみますと

確かに便利です。目次を聞いて、ちょっと聞いてみたいところをページ指定すると簡単にその箇所を聞くことができますし、また、すぐもとのところに戻って聞くこともできます。しおりをつければ何度でも必要な所に戻って聞き直すこともできます。（登場人物紹介などもしおりを付ければ何度でも聞き直すこともできます。）図や表などを聞いている途中で飛ばすことも可能ですし、逆に何度でも戻って聞くこともできます。また、これまでは索引などはほとんど活用は不可能でしたが、ページに瞬時に飛ぶことが出来ますので、活用が可能になります。つまり、デイジーで製作したＣＤ図書は私たちが墨字の本を読むのに近い状態の利用が可能になるといえそうです。とにかく、現在、ＣＤ１枚に50時間程度の録音が可能ですから、ほとんどの本はＣＤ１枚に収まります。また場合によっては何タイトルか入れることも可能です。

これまでの録音図書では検索が不便な為に、これまで本によっては別テープを製作したり、いろいろ工夫していましたが、デイジー図書の場合、検索が瞬時にできますので、作り方もいろいろ工夫する楽しみがでてきます。また、これまでは録音図書としては活用が難しかしかった本も、これからはどんどん製作が可能になってきます。本によっては点字図書以上に便利に利用できるものも作れそうです。ＣＤ図書は視覚障害者にとって夢の読書機となりそうです。

まだ、プレクストークの普及はこれからですが、今後、補装具に指定されたり、各地の図書館でＣＤ図書が作られるようになれば普及も進むことになるでしょう。

現在の段階ではカセットによる録音図書は今まで通りに作りながら、ＣＤ図書用として編集していくのが一番合理的でしょう。最初からデイジーで録音することも可能ですが、そうするとカセットテープ用を別に製作しなくてはなりませんのでかえって不便になります。

先月の例文の処理例

例文１

きょうは、こんなきぶんだぜ。
○★……●＝？◎？☆ｉ
どんなイミかというと、
（かぜひいて、あそびにいけなくて、つまんない）ってイミなんだ。

処理例

この例文はは、○★……●＝？◎？☆ｉ　の記号の読み方です。記号をそのまま読んでもいいでしょう。「ｉ」は正式な読み方はありませんので、「逆さま感嘆符」といった読み方もあるかも。

例文２

今までいろいろな人に話を聞いたところを総合して、こんなものを作ってみました。１９９６年度版見合いにおける力関係図です。

医者（地方では金融関係も含む）
　∨
ハゲでない
　∨
学歴と会社名（特に会社のネームバリュー）
　∨
年収
　∨
その他いろいろ

処理例

この「＞」記号の処理です。正式な記号の読み方を知らなくても、大きい順に書かれていることがわかりますので、記号の読み方が問題ではなく、図の意味がわかるように読むべきでしょう。「大きい順に」と言ってから、番号を付けて読んでもいいでしょう。

この図を読むのに図表の処理のように、『○○ページ図、項目は○○、順に読みます』といった読み方をするのは少し大げさすぎるでしょう。

例文３

ところが、これを飲んだ人の症例に、めだって多毛が認められたわけです。
で、これ、外用に使っても毛が生えたんですね。５０％のアルコールに５％の割合で溶かして塗ったりすると、すごく効く。アップジョン社のデータですが。１年間、７０００人くらいについて実験した結果、ある程度の改善が見られる人を含めると、「８４％くらい有効」というすごい数字がでています。

さあ、ここまで読んで、今「♥」という気持ちの人もきっといるでしょう。が、私が最近覚えた言葉ですが、「敵を知り、己を知れば百戦あやうからず」と孫子も言っています。冷静に、「なぜ、血圧降下剤で毛が生えるか」と考えてみましょうね。

処理例

ここでは「♥」この記号の読み方です。視覚的に訴えている文章ですから、音声化し

てもなかなか伝わりませんが、「ハートマーク」とか「ハート記号」といった読み方しかないでしょう。これを「幸せ」とか「幸福」といった読み方は、「やりすぎ」になるでしょう。記号を読んでも文意がなんとなく通じるのですから。

例文４　　（ルビの部分が先生の添削されたところです。どう音訳しますか）

日曜日の朝早く目がさめたら、パパ(とうさん)がつなぎ(作業着)を着て、玄関(土間)のところ(に)にすわって、ぐん手をはめているところでした。ぼくは、日曜なのにパパが早起するなんて、へんだと(していたので、ふしぎに)思いました。

ぼくはパパ(とうさん)に、

「パパ(とうさん)、どっかいくの(どっかへいくんか)。」

と言いました。

「うん(ああ)、たらの芽をつみに行くんだけど(けんど)、ぼく(僕)もいっしょに行くか。」

とパパ(とうさん)が言ったので、ぼくはほんとわ(は)朝ごはんを食べてから行きたかったけど(のだけれど)、

「いく、いく。」

と言ってとびおきました。

意味のない言葉は書かないようにしましょう。

ぼくがキーンと言ってパパ(とうさん)のとこ(ろ)へ行くと、パパ(とうさん)はぐん手をぼくにぶつけた(投げました)。

「ちゃんとはめてろよ。」

と言うので、

「どしてさ。」

と言うと、　　※注　神奈川県を始めとする関東六県の方言はさけましょう。けなげなさを出すためには方言風のもので十分です。

「ばっかだなあ(ばかだなあ)、たらの芽にはとげがあるからじゃん(だに)※注。」

と、パパが言いました。ぼくがまたキーンをしていると(はぶきましょう)、妹が起きてきて、

（意味のない言葉はやめましょう。「兄ちゃん、どこ行くん。」などに直すと良い。

「クピピピッ」

と言いました。そしたらママ(その時、かあさん)が『ネグリジェで、頭にカーラーをまいたまま出てきて(はぶきましょう)』

処理例

この添削文の読み方としては、一つひとつ読むより、一つの文章単位で処理する方が分かりやすいでしょう。最初に生徒の原文を読み、後で先生の添削文を読む事を断って処理するのがわかりやすいようです。

☆☆☆☆☆☆ 今月の練習問題 ☆☆☆☆☆☆

練習問題１

それはさておき

何人ものかたから、「ちかごろ朝日新聞に毎週日曜、『閑話休題』というコラムがのっているが、このタイトルはおかしいのではないか」というお手紙をちょうだいした。

最近朝日をとっていないので、近所の販売店で買ってみた。なるほど日曜ごとに出ている。朝日の幹部クラスと見える人たちが執筆する大きなコラムである。

たしかに「閑話休題」というタイトルは、ちょっとおかしいようでもある。

まず、ことばの素性を洗っておきましょう。

この語は元来、昔の支那の講釈師のきまり文句である。

物語の本筋を語る途中、時々脱線して脇道の雑談をする。教師が授業のあいまに余談をして生徒を喜ばせるみたいなものだ。

それからまた本筋にもどる時のきまり文句が、「閑話休題、言帰正伝」なのである。「余談はこれまでといたしまして、本来のお話にもどります」という意味である。略して前半の「閑話休題」だけですますこともしばしばある。

ややくわしく説明すると　――

「閑話（シエンホウ）」は余談。

「休（シウ）」は英語のdo not にあたる助動詞で、「…しない」「…するな」の意。

「題（テイ）」は「（話を）持ち出す、する」という動詞。したがって「休題」で「（余談は）やめにする」の意となる。

字は「閑話休提」と書いても同じである。また「閑話少題」とも言う。「少（シヤオ）」もdo not である。

この「閑話休題」がわが国に入り、これをわれわれの先祖は「閑話休題（それはさておき）」と七音に調子よくよんだのだった。

ついでに――。後半の「言帰正伝」は「書帰正伝」とも言う。魯迅の小説『阿Q正伝』の題は、この講釈師のきまり文句からとったものである。

さてそこでお手紙をくださったかたの趣旨は、「これではこのコラムだけが朝日新聞の本論で、あとは全部余談みたいじゃないか」というのである。まことにもっともである。

実際に読んでみると、たとえば北京支局長加藤千洋さんの〈北京の「鬼市」にて〉

などは、非常に気のきいた、内容文章ともすぐれたもので、当日全紙面中の白眉であった。ほかの記事はみんな「閑話(シエンホウ)」に見えるくらいである。そういう自負を示したものならば、このタイトルもわるくなさそうである。

しかし、新聞の本筋はあくまでニュース報道、と考えれば、やはりちょっとおかしい、ということになるであろう。

手紙をくださった一人が参考として、同じ朝日新聞昨年十月一日「青鉛筆」のコピーをつけてくれた。コーヒーの効用をのべたものである。

〈メーカーが、コーヒーの印象を四字熟語で例えてもらったところ、六千を超える回答が寄せられ、「悠々自適」「気分転換」「一家団欒（だんらん）」がベスト3だった。

「閑話休題」「心機一転」など効果を重視する男性に対し、女性は「和気藹々（あいあい）」などコミュニケーションの手段としてとらえる回答が目立った、とメーカー側。〉

この「閑話休題」はどういう意味なのだろう？

「コーヒーブレークはこれでおしまい。さあ仕事だ仕事だ」の意なら正用である。

「心機一転」と並べてあるところを見ると、そのようでもある。

しかし、コーヒーの効用という趣旨からすると、「楽しく雑談、休憩」の意味に用いているようでもある。

うーむ、むずかしいところだが、多分後者の意味に解しているのでしょうね。

つい最近出た、新谷克巳『矢立史考』（光陽出版社）という本を読んだ。矢立(やたて)とは昔の携帯用筆記具。その歴史を研究した労作であるが、ところどころに「閑話休題」という部分がある。これははっきり、「本論は一休み、ちょっと余談を」というところである。つまり「閑話休題」ではなく「閑話」そのものである。

以上、朝日新聞コラム、コーヒーの印象、矢立研究書の三つを虚心坦懐に通覧するに、これはやはり、「ここらで一服、楽しく雑談」の意味に用いられているとみなすのが至当なようである。とすれば、いまや世間一般、かなりの部分でそう解されているものと見るべきであろう。いわゆる「ゴキブリを三匹見かけたら百匹はいるものと思え」というやつである。――いやなにも、朝日新聞はゴキブリだと申しているのではありませんよ。見えるもののむこうには見えないものがあまたあるはずという、これはモノのたとえです。なにとぞ誤解なきよう。

まあ、ことわざ、格言、慣用語などは、しばしば本来の意味とはちがった意味に解され、ひろがり、市民権を得てゆくことがあるものである。もうそうなったら、年寄りがいくら「そうじゃないんだってば」とわめいても泣きごとを言ってもなかなか追っつくものでない。「閑話休題」もすでにそのコースに入っているのかもしれません。

思うに、「閑話休題」になぜそういう誤解が生じたのかと言えば、問題は「休」の字ですね。従前は「言ふを休(や)めよ」などというのを時々見かけたものだが、現在では

もう、この字がdo not の意に用いられることはたえてない。いま「休」と言えば、これはもう「休む」「休憩」の意味あるのみである。

そうなると、――閑話休題、この最後の「題」というのはなんだかもうひとつよくわからんが、とにかく、閑話して休む、とそういうことであるには相違ない。おしまいの「題」はおおかた「休むことにしてはどうだい」の「だい」くらいのとこだろう、ということになってくるのはものの勢いというものである。

近畿視情協録音製作委員会主催

第5回　録音図書製作グループ音訳研究会のご案内

日　時　：　１９９９年5月２１日（金）
　　午後　１時半～３時半
場　所　：　盲人情報文化センター９階ホール
テーマ　：　カタカナ語・外国語の処理
助言者　：　近畿視情協英語チーム　上田道子氏

＊ご案内は各図書館に発送します。資料は当日配布。
参加申込は所属の図書館を通してお願いします。

第４回の勉強会には、公共図書館や点字図書館に属する２７グループ４７名の参加がありました。最初に盲人情報文化センターのボランティア久保洋子氏と大林緑氏がプレクストークの紹介とデイジーを使っての編集を実演を交えながら紹介。その後に具体的な処理の勉強を４つのグループに分かれて行いました。

次回は、カタカナ語などの処理についての勉強会を行う予定です。

お知らせとお詫び

当分、『ろくおん通信』は隔月発行になります。

『ろくおん通信』はこれまで年１０回の予定で発行していましたが、次回から大変申し訳ございませんが隔月発行に変更させていただきます。これは、はじめにも書きましたが、２月からデイジーを使ってのＣＤ図書の製作を開始していることや、スタジ

オ録音も今後オープンテープからＭＯ録音（デジタル録音）に切り替える予定になっていること。また、オープンテープの編集もパソコンを使っての編集に切り替わる為、当分の間、『ろくおん通信』の発行をこれまで通り続けることが難しくなってきました。従いまして次回から隔月発行にさせていただきます。今後の発行予定は、99年４月、６月、９月、１１月、２月です。悪しからずご了承ください。

録音製作係

利用者から製作依頼を受けている原本

『バルザック全集　第４巻』　新庄嘉章他訳　＜文学＞
『現代のエスプリ　ゲシュタルト療法』　倉戸ヨシヤ編　＜精神分析＞
『福井隊長を偲んで』烈衛会有志編　＜伝記＞
『部落起源論』石尾芳久著 ＜社会科学＞
『民法（６）契約各論』第４版　遠藤浩他編　＜法律＞
『読売ヒューマンドキュメンタリー大賞＜生きのびて＞』＜ルポルタージュ＞
『キリスト教倫理の今日的課題』東京神学大学神学会編　＜宗教＞

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か５分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

今回引き受けて頂いた原本とグループ

『フランス史　上　』アンドレ・モロワ著 平岡昇訳	えくてもあ
『フランス史　下　』アンドレ・モロワ著 平岡昇訳	えくてもあ
『繁栄の法　未来をつくる新パラダイス』	えくてもあ
『魂の幼児教育』　としくらえみ著　＜教育＞	高槻音訳グループ
『おなら大全』ロミ＆ジャン・フェクサス著	ICCBﾘｸｴｽﾄｸﾞﾙｰﾌﾟ